

令和5年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価について

各分掌重点目標・達成状況・課題など

総務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
分掌・教科・学科を横断した業務の精選や見直しを行い、合理的な運営体制を整える。	様々な部署を横断している業務を俯瞰的にとらえ、目的・内容・構成等を確認し、煩雑化している部分については積極的に見直し等を提案する。	A	公式ウェブサイトの運営を広報企画部に業務移管し、合理的な運営体制に整えた。各種アンケートを紙媒体からデジタル化することによって、回答から集計作業までの流れを効率化することができた。 学期末アンケートについて、仕分け方法や取り扱いのルールを確立する等、運用方法を見直し、より効率的で質の高いアンケートを実施できた。	今後も ICT の積極的な活用により、アナログベースの業務をデジタル化させ、業務効率化を推進する。 様々な部署の業務が、円滑な学校運営につながるよう、業務内容の整理や見直し等、積極的に提言していく。
学校全体の ICT 環境をさらに充実させ、安定した運営体制のシステムを構築していく。	教科学科、各分掌や授業において、安定した ICT 環境を実現させるべく、インフラ整備の充実を推進する。ICT 支援員と協力し、メンテナンス業務の安定した運営体制を構築する。	A	校内ネットワークを含めた ICT 環境については、大きなトラブルやエラーもなく、安定した運用ができた。 ICT 支援員と協力することで、生徒・教員の日常的なサポート、メンテナンス業務等、安定した体制を構築できた。	今後実施される機器更新に向け、校内のインフラ設備の準備を進めていく。 安定した ICT 環境と運営体制を維持し、学校の DX 化を推進していく。

教務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
新学習指導要領に基づいた観点別評価について、円滑な運用・協議・研究を進める。	今年度から1,2年生で観点別評価導入となる。評価の時間を可能な限り確保し、慎重に協議のうえ、成績を付けるようにする。	B	特に大きな問題はなく観点別評価に取り組めている。	R6年度は新学習指導要領の完成年度となる。観点別評価による生徒の学習状況の推移が、最終的な生徒の評価に生かされるよう研究を進めたい。
校務支援システムの運用・研究を進める。	複数人を係として校務支援システムについて研究し、成績処理や要録への円滑な運用を目指す。	A	処理自体は円滑に運用できている。微調整がその場限りの対応となることもあり、総合的に深い研究には至っていない。	係が様々な課題に個別に対応しており、係任せになっている。長期的な視野での円滑な運用を目指していきたい。また各証明書への対応は引き続き今後の課題である。

生徒指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻時の声かけによる様子の確認。 担任、学年会と情報共有をした上で、面談やゆとり登校を実施。 関係各所との情報共有。 	B	生徒面談や担任との情報交換をすることで、生徒の現状を把握できる場合もあり、基本的な生活習慣の定着に向けたかかわりを持てる生徒もいた。	遅刻に対して改善の意思が低い生徒もあり、また遅刻理由の内容が多様化してきている。多様な生徒が増えてきているため、様々なところに協力を仰ぎ、多方面からの指導を行うことができるような仕組みづくりを検討していく必要がある。
学校全体で情報共有は行える体制を継続し、生徒が安心・安全に過ごすことができるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> 各担当中心に、担任や学年会と定期的に情報の確認を行う。 学校全体での情報共有をいじめ等対策委員会で行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年会の情報を生徒指導部内でも共有することで、指導に生かすことができた。また、いじめ等対策委員会でも共有を行ったことで、学校全体での情報共有を行う体制を継続することができた。 職員向けに人権教育研修の報告を行い、職員の人権意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で情報の共有を行える体制を継続していく。 職員の人権意識を高めることを行っていく。

生徒会部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒同士が学校生活の課題解決に向けて、計画立案や役割分担をし、協力して自主的、実践的に取り組むことへのサポートを委員会や部活動を通して継続しておこなう	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を受け付ける「工芸生の声」だけでなく、生徒が声をあげる機会を設け、生徒が積極的に生徒会活動に参加できる環境を作る。 各委員会で年間の計画を立案し取り組むだけでなく、次年度へ向けた振り返りができる時間を確保する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「節分企画」といった形で生徒会執行部がイベントを企画し、学校に対する改善点を受けつけることができた。 各委員会で振り返りを行う時間を設けることができた。 各委員会で振り返りを行う時間を設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 要望を言うだけでなく、生徒が主体的に生徒会活動を通して問題解決できる仕組みづくりが必要である。 各委員会で挙げた反省点を次年度のメンバーが引継げるような体制づくりが必要である。
生徒会執行部と各委員会が連携を強化して委員会活動を行い、生徒が生徒会活動や学校行事に主体的に取り組む体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が中心となり、行事の企画や運営を行う 執行部が各委員会に参加し連携を図る 	B	各委員会活動や学校行事において、生徒自身が主体的に企画を検討し、運営することができてきた。	<ul style="list-style-type: none"> 執行部と各委員会間の連携を確立し、生徒会全体として目標に向かって取り組み、充実した生徒会活動を行っていくよう努める。 これまで以上に生徒自身が委員会活動を自主的・自発的に進めるようサポートしていく。

進路指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
本校におけるキャリア教育の確立と、その効果的な手立てを研究し実践する。	3年間を通じた進路指導計画方針を作成し、流れや目的を確認しながら、各行事の見直しを図る。	B	キャリア教育に関わる進路行事が、3年間を通してどのように積み重なっていくかを整理し、見直すことができた。	生徒がそれぞれの課題に向き合い、進路選択へ意識を高めるきっかけとなるような仕掛けを考えたい。
生徒が自らの能力・適性や個々の成果に合った進路選択ができるようにサポートする。	生徒が自身の適性や希望などを見つめ直す機会を提供し、個々の進路選択に合わせたサポートをする。	A	生徒が探究活動や職業適性検査の結果などを踏まえ、自らの進む道を選択できるように、担任や学科の協力を得てサポートすることができた。外部ツールの活用も効果的に進んでいる。	進路選択に向けて、わかりやすい資料を提供・提示しながら、細やかなサポートをしていく。必要に応じて企業や大学、専門学校などの外部と連携を図る。

保健部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題
委員会の生徒が中心となって美化や衛生、保健に関する意識を全校生徒で高め、健康的な学校生活を送れるよう指導・助言する。	保健委員によるほけんだよりの作成、講話実施に向けた掲示物の企画、アンケート集計等、委員会活動を通し、自ら保健に関する活動を行う意識づけ。	A	ほけんだよりの講話、いのちの講話の掲示物作成等、生徒主体で保健に関する活動を行うことができた。また、校内からのごみの削減のため、ごみ持ち帰りの呼びかけなどを実施した。	継続的に、生徒自ら心身の健康に留意し、自己で健康管理を実施していくことができるよう指導・助言する。
日々の学校生活の様子、こころのSOSなどを通じて悩みを抱える生徒の情報を集め、サポート体制を整え、共に講話を通していのちの大切さを伝えていく。	教育相談係と養護教諭を中心に、教員同士が密に連携を取り、見守りが必要な生徒の早期発見を図る。 こころのSOSや様々な講話の実施をSCと連携して行う。	A	養護教諭、教育相談係を中心に情報収集を行い、SCによる教員向けの講話や事例検討会を実施し、教育相談に役立てることができた。いのちの講話内容がより生徒に伝わるよう、学年ごとにいのちの講話を実施し、相談することや相談場所になることの大切さ、相談場所は近くにあるということを伝えた。またSCと連携し、講話のアンケートをもとにSCとの面談を実施した。	今年度同様、様々な活動から生徒の様子を知り、教員同士やSCと密に連携を取ることで、見守りが必要な生徒の早期発見や生徒のサポート体制を整える。 また、継続的に講話等を実施し、教育相談につながる活動を充実させる。

図書部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度の課題・改善
図書館の設備充実	生涯を通じて読書に親しむ習慣を身に付けられるよう、図書の選定を行い、図書館の設備を充実させる。	B	生徒向けの図書を積極的に購入したが、昨年度からの新しいシステムを活用した取り組みが、不十分であった。	新システムでの各教員の研修を行い、十分に活用できるようにしていく必要がある。また、カーテンなど、本を守るための設備の充実も求められる。
生徒・教員に向けた図書館の利用促進	掲示板の利用や、図書館通信の充実を図り、広報活動を活発化させる。	A	昨年度設置した掲示板に加え、写真掲示板を新設したり、新たにキャラクターを募集して、広報活動を積極的に行った。	広報活動や行事などの運営を、生徒の委員会を主体に行っていくよう指導していきたい。

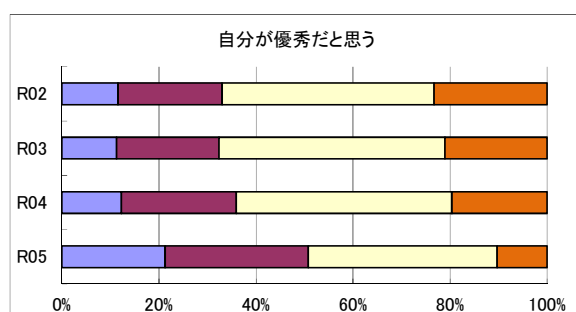
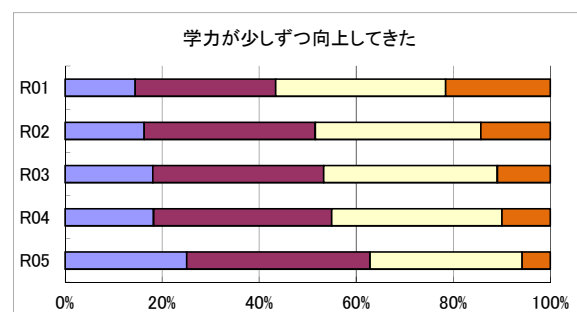
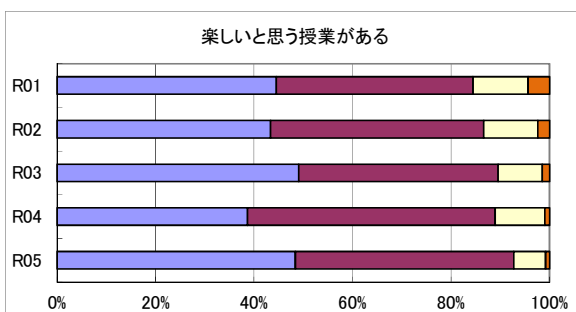
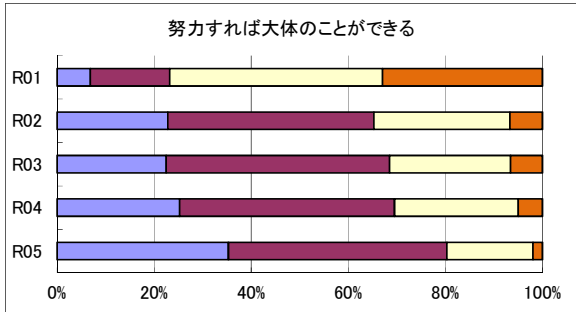
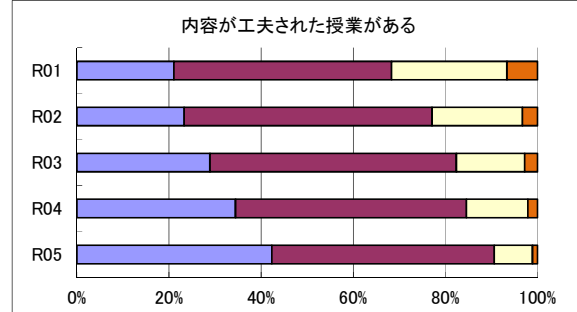
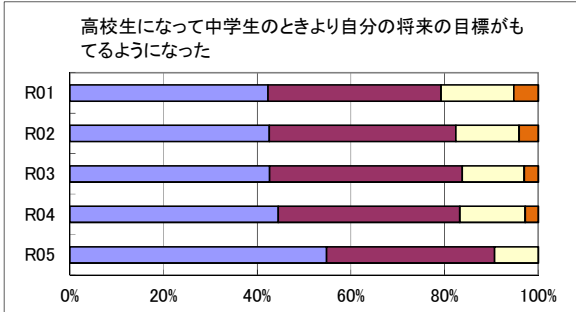
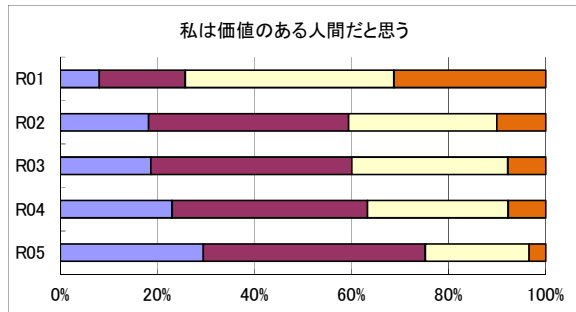
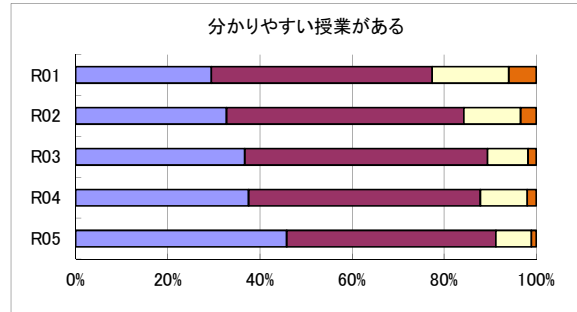
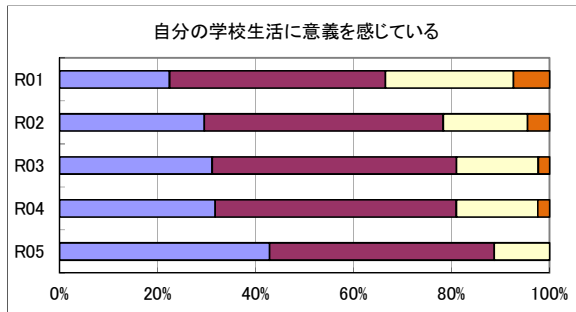
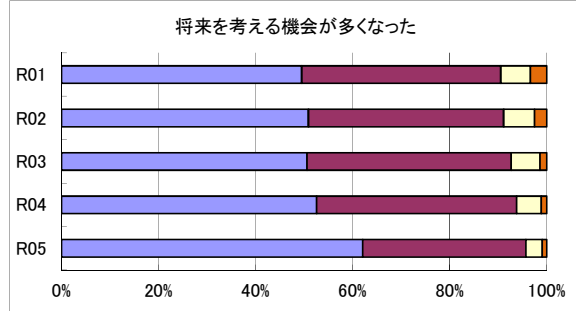
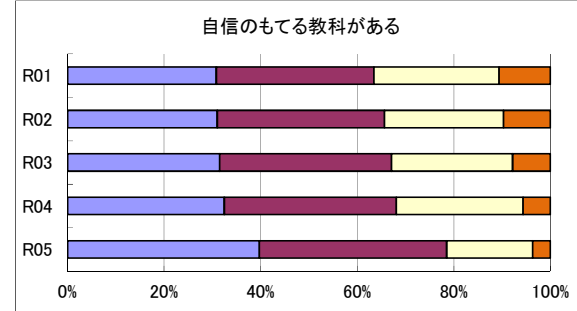
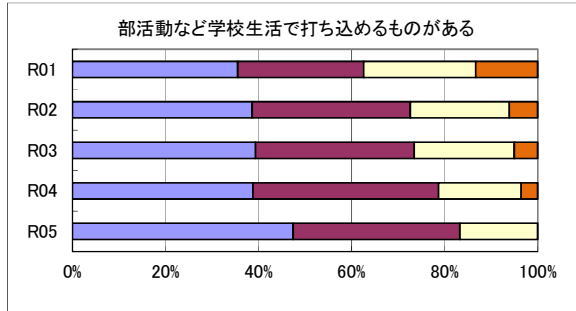
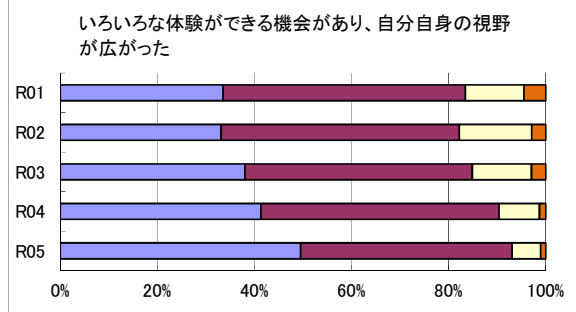
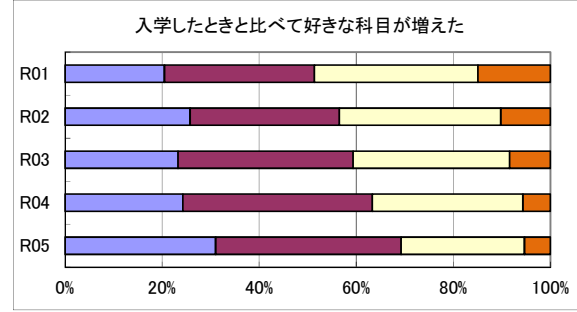
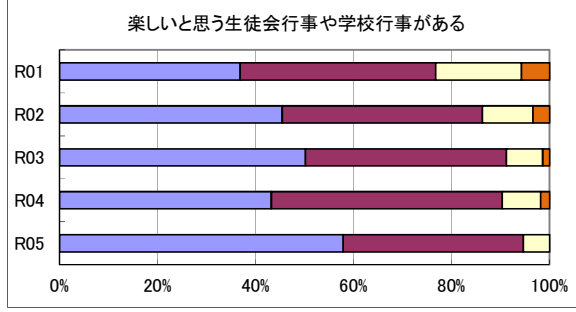
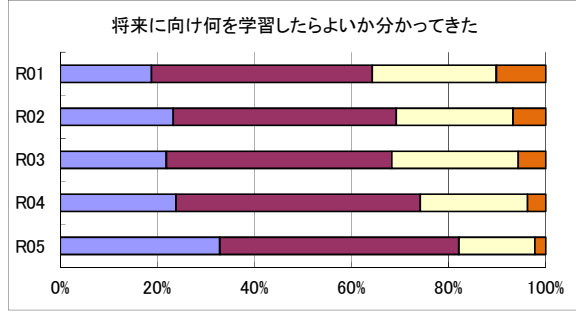
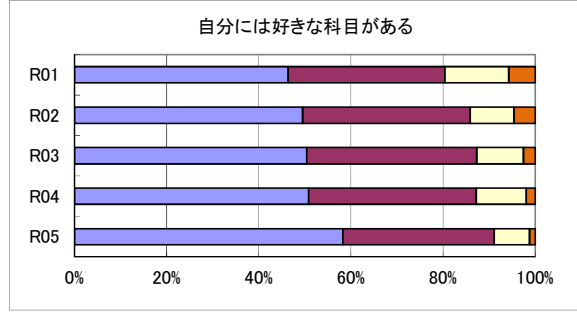
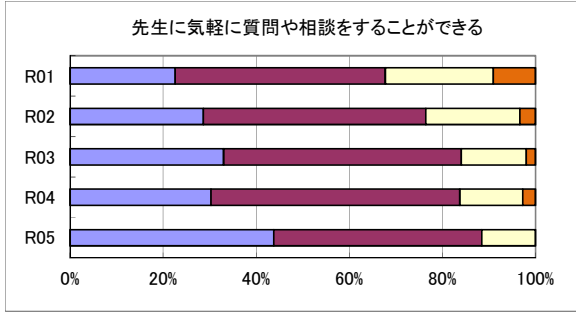
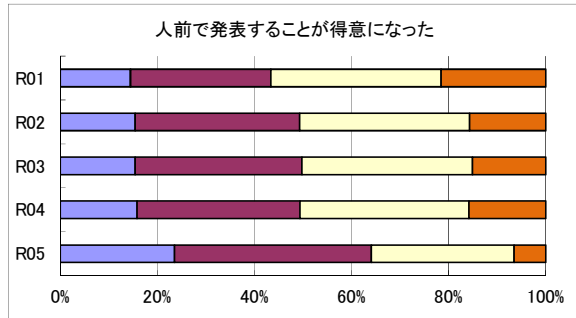
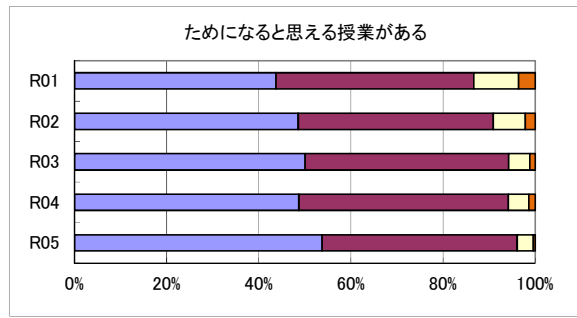
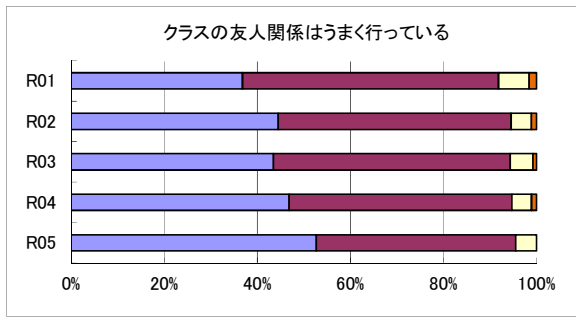
広報企画部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
安定した受験生確保のため、様々なイベントを企画・発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動見学会を開催する。 ・公式 SNS を設置する。 ・WEB サイトを検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動見学会を開催し、多くの中学生にアピールできた。 ・Instagram、X を設置し、様々な取り組みを発信できた。 ・WEB サイトは現在進行中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB サイトや SNS を通じて、有益な情報を多く発信する。
関係部署との連携を図り、安定した受験生の確保のための情報収集・分析を行い、活用方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問の企画・立案・まとめ ・進路説明会、上級学校説明会の対応 ・入学案内、学校パンフレットなどの製作 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの中学校での進路説明会を実施することができた。 ・学校パンフレットの製作を早い段階より取り組むことができた。 	広報活動の対象を整理し、対象にあった発信方法を検討する。

工務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	課題・改善
特色ある工業教育（デザイン・ものづくり）を実現するための施策を展開していく。	スクールアイデンティティ「ONE BY DESIGN」に基づき、工芸高校らしさを体現できる魅力的なカリキュラムの在り方を研究、検討していく。	B	教科研究会や教育課程研究会を通して新しいカリキュラムについて情報交換を行ない、必要な実習設備の整備を進めることができた。	カリキュラム完成年度を迎えるにあたって、より実践的な課題が実施できるよう、PC 室ほか実習設備の見直しなどを引き続き検討する。
産学官連携事業（KOGEI DESIGN OFFICE）の活動を展開していく。	KOGEI DESIGN OFFICE の活動がより活発になるように検討を重ね、環境整備を進めていく。	A	各学科の協力のもと、数多くの外部連携に取り組み実績を積み重ねられた。また、競技大会での活躍等も含め、新聞等メディアへの露出も多く、工芸高校の活躍を広く PR することができた。	引き続き案件受け入れ基準の策定などをすすめ、KDO 活動ほか工業科の課外活動について持続可能な形を検討する。

学校生活アンケート(全校) 令和元年度から令和5年度の比較



凡例

- とても思う
- まあ思う
- あまり思わない
- まったく思わない

